

令和6年度第3回岐阜県事業評価監視委員会 議事要旨

1. 日時：令和6年8月29日（木）13：30～15：30

2. 場所：岐阜県議会棟1階 第1会議室①

3. 出席委員

岐阜大学 教授	篠田 成郎 委員長
岐阜大学 教授	沢田 和秀 副委員長
岐阜工業高等専門学校 教授	水野 剛規
岐阜大学 教授	三井 栄
岐阜県弁護士会 弁護士	池田 紀子
岐阜商工会議所 副会頭	井手口 哲朗
岐阜県農業協同組合中央会 専務理事	川村 規明生
岐阜県森林組合連合会 常務理事	神原 和義
一般財団法人 岐阜県地域女性団体協議会 副会長	河野 美佐子
岐阜県商工会女性部連合会 副会長	長沼 恵子
公募 団体職員	波能 寿子
公募 無職	藤寄 眞起
公募 会社員	堀 朱実

4. 議事要旨署名委員の指名

委員長が議事要旨署名委員に井手口委員、河野委員、沢田副委員長を指名。

5. 議事

(1) 再評価箇所の説明及び審議について

- 1) 公共林道事業（地方創生道整備推進交付金）「三倉～上ヶ流」
- 2) 道路改築事業（交付金事業分）「(国) 248号 光ヶ丘工区」
- 3) 道路改築事業（交付金事業分）「(主) 白川福岡線 黒川工区」
- 4) 広域河川改修事業「一級河川 津屋川」
- 5) 広域河川改修事業「一級河川 犀川」
- 6) 大規模特定河川事業・広域河川改修事業「一級河川 土岐川」

6. 議事要旨

(1) 再評価箇所の説明及び審議について

1) 公共林道事業（地方創生道整備推進交付金）〔事業主体 岐阜県〕

「三倉～上ヶ流」

説明者：森林経営課 石田課長

【審 議】

沢田副委員長	「費用対効果分析資料の事業費」と「資料 P5 の事業費」が違うのはなぜか。
説明者	費用対効果分析資料の事業費は、社会的割引率を用いて、現在価値に換算しているためである。過年度の事業費は割増、将来の事業費は割り引きをおこない算出している。
沢田副委員長	正しい事業費はどちらか。
説明者	資料 P5 の 5,338 百万円が実際の事業費である。
沢田副委員長	費用対効果分析結果はどのようにとらえたらよいか。
説明者	実際の事業費は 53 億円であるが、費用対効果分析マニュアルに基づき、現在価値に換算して評価している。
沢田副委員長	評価方法は理解したが、実際の事業費と異なる値で評価していることの説明が必要ではないか。
篠田委員長	今回の林道事業に限らず、すべての事業で同様に行なっている。費用対効果で用いている事業費の算出は、国のマニュアルに基づき、現在価値化している。そのため、実際の事業費と異なる場合があることを、注釈に記入することでどうか。
事務局	注釈を記入することとする。
井手口委員	延長による進捗率が 51.4%で、事業費による進捗率が 63.3%である。残事業に対して事業費が不足していないか。
説明者	残事業箇所は山の傾斜が比較的緩く、これまでの区間より単価が下がる計画である。
神原委員	この現場は作業道を開設して車両系をメインに集材を進めるということか。
説明者	そのとおりである。
篠田委員長	現地は、36 年生から 60 年生の伐期を迎えている人工林が 68%と多くを占めている。一方、林道の完成までにあと 10 年間必要である。 10 年経過すると大径木となり、伐期を逃してしまうこともあると思うが、どのように解決していく予定か。
説明者	完成した部分を利用することは出来るため、路線全部が完成しなくても効果を発揮することが出来る。林道の完成した所から、作業道を開設し、森林整備の面積を確保していく。

篠田委員長	林道の完成していない森林経営計画箇所まで、作業道を先行して開設し、林道完成時には、林道と接続、周回可能となる作業道を開設する計画はないのか。
説明者	作業道については、事業者が開設するため、調整が必要である。
篠田委員長	税金を投入し、整備を進めている。林道開設を要望した地元にも作業道を計画的に開設するなど、やるべきことをやっていただくことをお願いしていく必要があると考える。
説明者	町、組合、県を交えて計画的に進めていきたい。

【審議結果】事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。

2) 道路改築事業（交付金事業分）[事業主体 岐阜県]

「(国) 248号 光ヶ丘工区」

説明者：道路建設課 荻田課長

【審議】

沢田副委員長	P2の採択基準で「地域住民の日常生活の安全性若しくは利便性の向上を図るために必要」とある。「若しくは」とはどちらかでよいことになるが間違いないか。
説明者	採択基準としては、どちらかが必要になるということであるため、間違いない。今回の事業については、両方に該当している。
篠田委員長	費用対効果が1.3である。激しい渋滞が発生する箇所なので、もっと効果が上がってもよいと考える。費用対効果が1.3にとどまっているのは、事業費が大きいからか。それとも、渋滞緩和による走行時間の短縮効果がそれほど大きくないためか。
説明者	走行時間短縮による便益は大きく算出されているが、費用も高額である。都市部のため、用地取得に多額の費用がかかったことも影響している。
波能委員	P12の「OD」とはなにか。
説明者	ある地点からある地点へ移動する車の交通量のことである。観測した時期によって数値が異なるため、使用ODの変更と記載している。

【審議結果】事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。

3) 道路改築事業（交付金事業分）[事業主体 岐阜県]

「(主) 白川福岡線 黒川工区」

説明者：道路建設課 荻田課長

【審議】

水野委員	自然環境への配慮として、LED照明の採用とあるが、特別なことか。
説明者	近年は、LED照明を採用することが一般的である。事業着手が平成14年のため、当初計画から配慮したということである。

河野委員	延長 1,640m であるが、通学路で他に危険な箇所はないのか。 今回の事業箇所の整備だけでよいのか。
説明者	事業箇所は、通学に利用している区間で特に狭い箇所である。
篠田委員長	他にも狭い箇所があると思うが、なぜ今回の整備箇所だけ整備するのかという質問である。
説明者	特に、山が切り立っており、危険な箇所である。
河野委員	通学路は安全に配慮いただきたい。
説明者	了解した。他の箇所についても要望等を踏まえて、検討させていただく。
篠田委員長	地元からの要望はあるか。
説明者	今回の整備箇所に限らず要望は受けているので、各地域の状況や優先順位を考えながら整備を進めていく。
神原委員	黒川地区の人口はどのくらいか。
説明者	130 人程である。
篠田委員長	130 人のために、多くの予算と時間を懸けて事業を実施すべきかという考え方と、一方では事業を実施しないと、地区が消滅してしまうという危機感より早急に事業を実施すべきだという考え方の両方がある。そういう中で、県としても早く事業を完了させようとしていると思うが、もう少し早く事業完了できるとよい。

【審議結果】事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。

4) 広域河川改修事業[事業主体 岐阜県]

「一級河川 津屋川」

説明者：河川課 真鍋課長

【審 議】

水野委員	計画期間が 30 年、現時点で 24 年が経過している。進捗率が 32%であるが、残り 4 年で事業完了できるのか。
説明者	事業は調査、測量、設計の順に進めており、地元との調整等もある。工事に入ると進捗は大きく進む。予算次第であり、確実とは言えないが、完了する計画で進めている。
水野委員	予算に対する進捗率はどうか。
説明者	32%である。
水野委員	工事の進捗率はどうか。
説明者	工事の進捗率は、正確な数字はないが、P12 の資料より半分弱というところ。
神原委員	資料 P10 で時間最大雨量 54mm、50mm と記載があるが 1 時間降っただけでは写真のような状況にはならないと考えられる。近年は、1 時間で 100mm の雨が降ることもあるが、どのように考えているか。
説明者	指摘されたことは、国でも議論されており、見直しが始まっている水系もある。懸念されているとおり、津屋川の計画は、過去の雨量情報をもと

に作成したものである。過去の雨量情報だけではなく、今後の見込みで方針を変えていかなければならないと思うが、岐阜県は内陸県ということもあり、下流端は国が管理している区間になる。今回の事業箇所も、国の見直しに応じて、変えていく必要があると考える。

【審議結果】事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。

5) 広域河川改修事業[事業主体 岐阜県]

「一級河川 犀川」

説明者：河川課 真鍋課長

【審 議】

水野委員	費用便益比分析資料の「直接被害」と「間接被害」を合計した値が、「合計」と合わないがなぜか。
説明者	費用対効果の計算で施設の残存価値を計上しているが、記載していないため合致していない。
水野委員	表の中で完結するようにしていただきたい。
説明者	了解した。
堀委員	費用便益比分析資料に「メッシュサイズの変更はしていない」と記載があるが、変更していないことが変化要因となるのか。
説明者	メッシュサイズを変更していないことは、変化要因ではない。このあと説明する土岐川の案件でメッシュサイズを変更したことが変化要因であるため、誤解が無いように記載したものである。
池田委員	進捗率が21%とあるが、事業が進んでいない原因はなにか。 令和15年度完了は困難と思うが、完了時期はいつ頃を見込んでいるか。
説明者	用地買収に時間を要している。
池田委員	用地買収とはどういうことか。
説明者	川幅を拓げる際に用地を買収する必要がある。人家が多い箇所では交渉に時間を要することがある。
池田委員	用地買収の完了していない箇所がまだあり、これから交渉する箇所もあるということか。
説明者	用地を買い進めながら事業を進めているのが現状である。
池田委員	道路事業では、用地の進捗の記載があるため、河川についてもそのような記載があるとわかりやすい。
説明者	検討する。

【審議結果】事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。

6) 大規模特定河川事業・広域河川改修事業[事業主体 岐阜県]

「一級河川 土岐川」

説明者：河川課 真鍋課長

【審 議】	
神原委員	河川改修工事で、河床を下げることを実施されているが、地下水への影響はないのか。
説明者	地下水への影響はほとんどない。
神原委員	P24 の表であるが、雨量が増加すると、被害も増加するという捉え方でよいか。
説明者	総雨量だけではなく、時間当たりの雨量も被害の大きさに関係してくるので、複数の資料を提示したほうがわかりやすかったかもしれない。
沢田副委員長	計画規模を小里川の上流と下流で変えているのはなぜか。
説明者	小里川には小里川ダムがある。 また、下流は水が多く集まり、河川が決壊した時の被害が大きくなるため、確率規模を上げている場合もある。
波能委員	表のタイトルが「費用対効果分析資料」と「費用便益比分析資料」と違うのはなぜか。
篠田委員長	事務局で様式の統一をおこなうことでどうか。
説明者	「費用対効果分析」と「費用便益比分析」は別のものである。「費用対効果分析」は定性的なものを含む、例えば、河川事業では、人が亡くならないことを効果に含んでいない。
篠田委員長	P24 の資料であるが、日雨量が記載されているが、日雨量ではなく、累計の降水量を記載いただきたい。
説明者	了解した。
篠田委員長	「※1 雨量は土岐川瑞浪地点の流域平均雨量」と記載があるが、これはどういう意味か。
説明者	土岐川瑞浪地点を集水点とする上流域全体の雨量観測所の平均雨量である。

【審議結果】事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。

(以上)